

「目標協働達成校」による

学校・家庭・地域の連携の推進

[学校・家庭・地域の連携の状況]

- 学校・家庭・地域の連携は、長い間の重要課題
- 平成18年、教育基本法改正
「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」
の規定が新設
- これまで、様々な仕組みもつくられてきた。
評議員制度、学校関係者評価、学校支援地域本部、
コミュニティ・スクール、「協育」ネットワーク

[学力・体力向上県民フォーラム(24,25年度)]

- テーマ : 子どもたちの育ちに向けて
— 体験型ワークショップ —
- 参加者 : 小中学校PTA関係者、教育委員会関係者等



[学力体力向上県民フォーラム・PTAとの意見交換]

<参加者の声>

- 一昔前と異なり、学校の目標を、PTA総会や学校新聞などを通じてアピールするようになってきたと感じている。
- 学校の応援団として協力したいと思っている。
- できる限り、保護者として、学校と協力して子育てを頑張っていこうと思う。
- 学校・家庭・地域が三位一体でないと子どもは育成できないと感じた。

[学力体力向上県民フォーラム]

＜学校・家庭・地域の連携についてどう思いますか＞

- たいへん重要である : 79%
- 重要である : 20%
- それほど重要でない : 0%
- 重要でない : 0%
- 無回答 : 1%

[教育奨励賞]

- 平成22年度から、地域の様々な取組を表彰
- これまで281の地域・団体を表彰
(読み聞かせ活動、登下校時の見守り活動、学習指導ボランティアなど)
- 昨年度の表彰式の様子

地域が学校に関わることで、子ども達が生き生きするようになった。学校の先生も一生懸命頑張ってくれる。住民も色々な力を学校に提供できるようになった。



課題はないか？

[PTAとの意見交換・学力体力向上フォーラム]

<参加者の声>

- 学校は、説明力不足の気がある。先生方はわかっているものとして話をするので、抽象的な話となることが多い。
- 情報の共有が行われていない。
- 学校評価が抽象的で、学校評価の結果を見せられて評価せよと言われても、言いようがない。
- 「数値で目標を掲げるのでPTAも応援してくれ」と言われた方が我々もやりやすい

[PTAとの意見交換・学力体力向上フォーラム]

- 学校は「できないことはできない」と言ってほしい。「ここから先は家庭の問題」と言える校長・教育委員会であってほしい。
- もっと保護者も学校任せではなく、何か取り組んでいかなければならないと思った。情報が欲しい。

学校の状況は？

[保護者・地域住民への情報提供の状況]

<学校評価等実施状況調査>

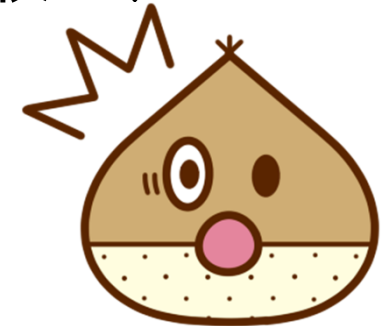
- ほとんどの学校で、学校の教育目標や教育計画を、学校便りやPTA総会などを通じて、保護者に対して公表。
- 99%の学校で、学校関係者評価を実施。
- ほとんどの学校で、学校関係者評価の結果を保護者に公表。
- ほとんどの学校で、行事などの時に学校を公開。



[保護者・地域住民への情報提供の状況]

一方、

- ・ 4割以上の学校は、学力調査の結果や体力調査の結果、生徒指導上起こっている課題について情報提供していない
- ・ 4分の1の学校は、地域住民には自己評価の結果を公表せず
- ・ 学校関係者評価の結果を活用して、保護者や地域住民等と改善の手立てについて話し合う機会を設けた学校は、38校、全体の10%



[学校・家庭・地域の連携の現状・課題]

学校・家庭・地域の連携、学校からの情報提供は進んできているものの、

- ① 学校の目標や説明が抽象的で、具体的な目標・取組や状況が、家庭・地域との間で十分共有されていない
- ② 連携を具体的に進めるための場や機会が十分設定されていない

学校の目標・取組の 焦点化・具体化

～「芯の通った学校組織」～

「芯の通った学校組織」の構築

学力・体力向上、豊かな心

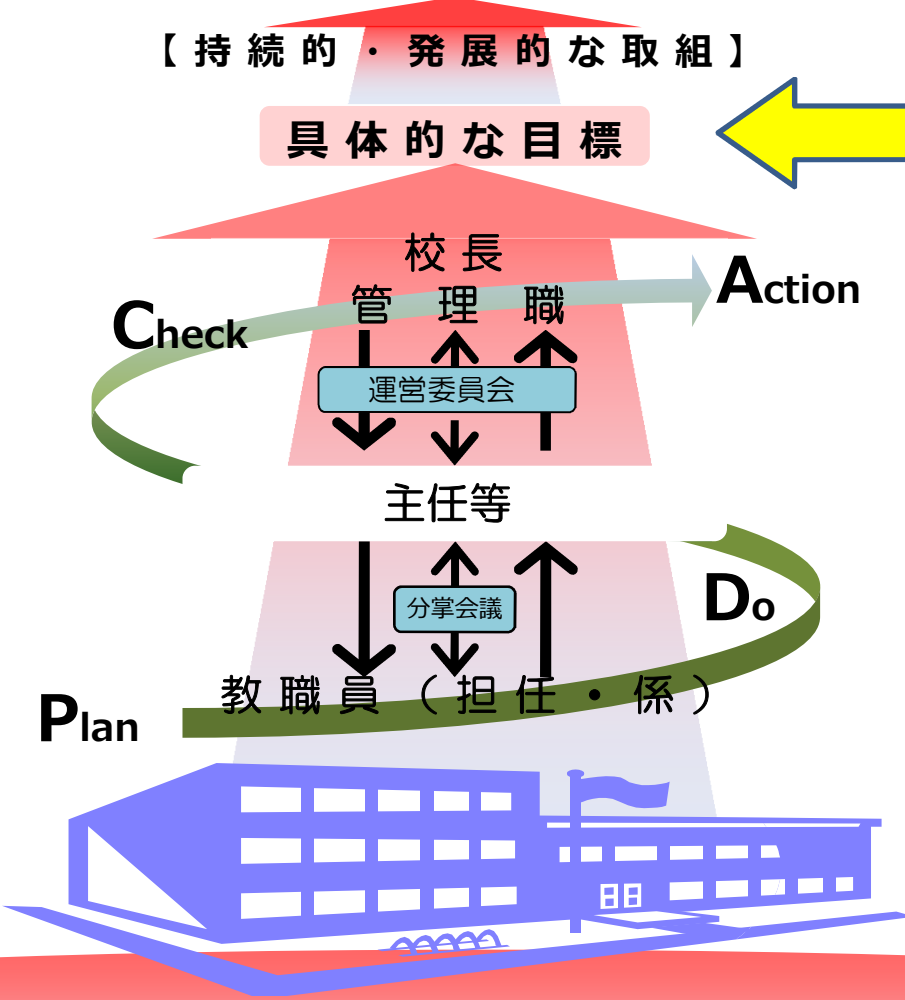
【持続的・発展的な取組】

具体的な目標

← ポイント

平成24～26年度
の3カ年で推進

- 目標達成に向けた取組
- 基盤となる学校運営体制



[基盤となる学校運営体制]

[目標の焦点化]

<3つの重点目標>

- 基礎基本の定着
- 感性と表現力
- 体力の向上

[達成指標の設定]

■ 基礎基本の定着

(達成指標)

- 単元まとめテスト平均点国語80点、算数85点
- 単元まとめテスト60点未満の割合を半減

■ 感性と表現力

(達成指標)

- 学校が楽しいと感じる子が90%以上
- 積極的にあいさつしたと答える子が90%以上

■ 体力の向上

(達成指標)

- 運動や外遊びに積極的に取り組んだと答える子が80%以上

[具体的な取組の設定]

■ 基礎基本の定着

→ 取組: めあてとまとめを明確にした1時間完結型授業の徹底

→ 取組指標: 全教職員が学期に3回以上、互見授業を実施する

→ 取組: スキルタイムを設定し基礎基本の定着を図る

→ 取組指標: 全教員で週3日、1回15分間実施

→ 取組: 3・4年算数科指導教諭、5・6年習熟度指導加配教員の活用

→ 取組指標: 全教員が授業公開に年2回以上参加

[具体的な取組の設定]

■ 感性と表現力

→ 取組:音楽活動の充実

→ 取組指標①:毎日1回学級で歌を唄う

→ 取組指標②:音楽的な集会活動を年2回以上行う

→ 取組:あいさつができることの重要性を教える

→ 取組指標:全校集会や学年集会で必ずあいさつのことに触れる

[具体的な取組の設定]

■ 体力の向上

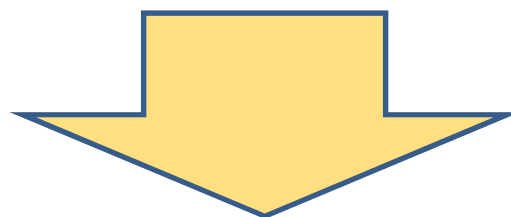
- 取組：学校全体で、サーキットトレーニングに取り組む(一校一実践)
- 取組指標：全学級が、体育の授業開始時にサーキットトレーニングを行う

- 取組：家庭と連携した基本的な生活習慣の確立
- 取組指標：学級懇談やPTA行事で10-7-1運動について触れる

- 取組：全校児童が毎日運動や外遊びをするように取り組む
- 取組指標：毎日、中休み又は昼休みに運動や外遊びをするように促す

[4点セット]

- ① 重点目標
- ② 達成指標
- ③ 重点的取組
- ④ 取組指標



学校の目標・取組を焦点化・具体化

[学校・家庭・地域の連携の現状・課題]

学校・家庭・地域の連携、学校からの情報提供は進んできているものの、

- ① 学校の目標や説明が抽象的で、具体的な目標・取組や状況が、家庭・地域との間で十分共有されていない



「芯の通った学校組織」の取組で、連携の素地！

- ② 連携を具体的に進めるための場や機会が十分設定されていない

[連携の場や機会について]

- 学校の重点目標の背景にある、子ども達の状況や学校の課題を話し合う機会はあるか。
- 学校が、家庭や地域に、是非この部分について協力してほしいと協議する場があるか。
- 家庭や地域の組織（PTA、自治会等）の中で、学校の状況に即しながら、それぞれが組織としてできることを決める機会があるか。
- 年度途中や年度末に、学校・家庭・地域の取組により、子ども達がどう変わったかをお互いに確認する場があるか。

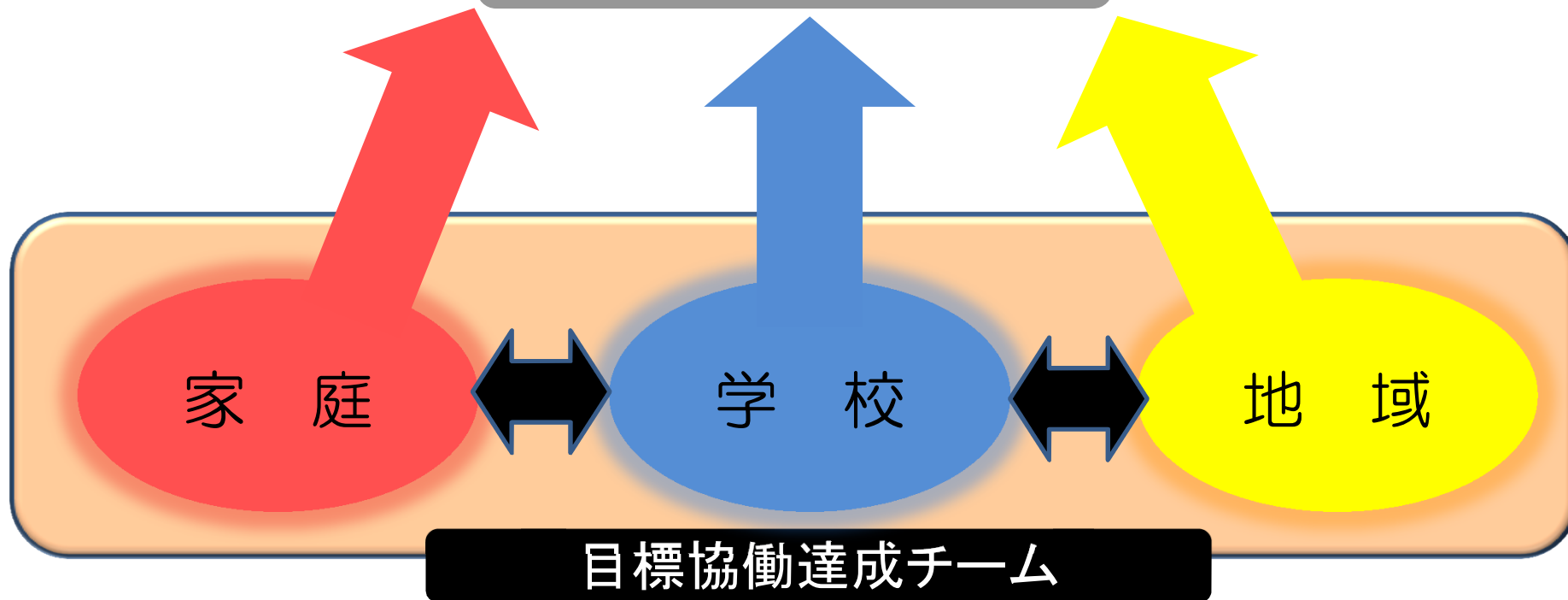
目標協働達成校



子どもたちの成長



学校の重点目標



学校の重点目標の達成に向け、学校・家庭・地域で定期的に議論を行いながら、協働して取り組み。

[コミュニティ・スクールについて]

コミュニティ・スクールのイメージ



目標協働達成校の活動モデル

目標協働達成校での取組
の参考となる
調査研究データの紹介

[大分県の小中学生の学力の状況(2013)]

		2009	2010		2013
小学校	国語A	29	41		30
	国語B	42	41		26
	算数A	25	33		11
	算数B	44	33		26
	総合	40	41	⇒	24
中学校	国語A	33	38		37
	国語B	36	40		30
	数学A	39	43		38
	数学B	43	42		39
	総合	40	42	⇒	36

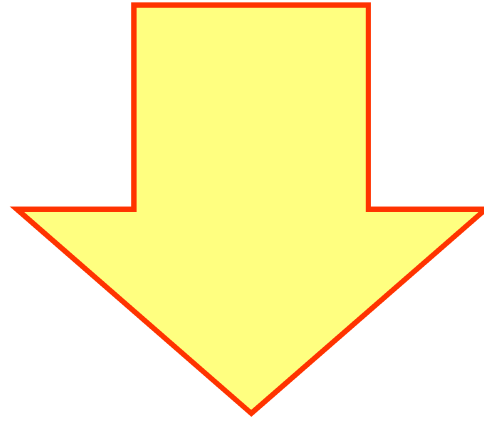
出典: 全国学力・学習状況調査を大分県で独自集計
 ※2010年度の全国順位は各都道府県の平均正答率の中間値

一層の学力向上が必要！

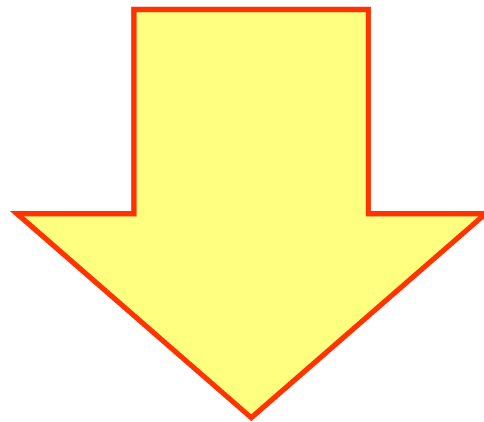
- 2013年度、全国学力調査で、大分県の児童・生徒の学力は、小学校が全国で24位、中学校が36位であり、小学校は過去最高順位。
- ただし、目標としている「九州トップレベル」には、まだ遠く、全国平均にも達していない。

※2013年調査

- ・ 小学校九州トップ：熊本県20位
- ・ 中学校九州トップ：熊本県22位



興味深い調査研究データあり！



[学力の成果が上がっているのはどこか(連携編)]

(研究の概要)

- 文部科学省委託研究
- 保護者約4万人、学校約800校を対象に、全国学力調査の際、追加的な質問により調査研究

<わかったこと>

1. 学校・家庭・地域の連携が進んでいるところで学力が高い

- 保護者・生徒が地域と学校に関心をもち参加する
- 地域の人が学校に関わりをもつ
- 学校は保護者に情報を提供し良好な関係を形成するなど、相互の関わりがあるところ

[学力の成果が上がっているのはどこか(学校編)]

2. 以下のような取組を行っている学校で学力が高い

□ 家庭学習の指導の充実

(例: 児童生徒に宿題だけでなく自主学習等に取り組ませ、教員が毎日チェック・コメントをしている。)

□ 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視

(例: 中学校において教科を超えて授業を見せ合い、教え合いを行っている。管理職が明確なビジョンや方針を示し共通理解を図っている。他校の授業を見る研修を促している。)

□ 小中連携の取組の推進

(例: 小中で学習規律・生活規律面や教育課程での系統性を図っている。)

□ 言語活動の充実等

(例: ノート指導の充実。黒板に「めあて(目的)」を書き、授業のねらいを明確化させる。教育課程全般で「話すこと」や「書くこと」に力を入れている(「聞くこと」はできている)。読書習慣の形成に力を入れている。)

□ 各種学力調査の積極的な活用

□ 基礎・基本の定着と少人数指導

(例: 基礎・基本の徹底。少人数指導、ティームティーチング、習熟度別指導。)

[学力の成果が上がっているのはどこか(家庭編)①]

3. 以下のような子どもへの接し方をしている家庭で学力が高い

□ 生活習慣に関する働きかけ

(毎日決まった時間に寝る/起きるようにしている、毎日朝食を食べさせている、テレビゲームで遊ぶ時間を限定している、携帯電話等の使い方に関するルールや約束を作っている(または、そもそも持たせていない))

□ 読書に関する働きかけ

(本や新聞を読むようにすすめている、読んだ本の感想を話し合ったりしている、小さい頃に絵本の読み聞かせをした)

□ 学習に関する働きかけ

(子供の勉強を普段みている、計画的に勉強するように促している、子供が英語や外国の文化に触れるよう意識している)

□ 文化・芸術・自然体験活動に関する働きかけ

(子供と一緒に「博物館や科学館」「図書館」「美術館や劇場」に行く)

□ 子供とのコミュニケーション

(子供と「学校での出来事」「勉強や成績」「将来や進路」「友達のこと」「社会の出来事やニュース」について話をする)

[学力の成果が上がっているのはどこか(家庭編)②]

4. 以下のような行動や考え方をしている家庭で学力が高い

<学校との関わり>

学校の教育に関する意識

(学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っている、学校や学級の教育活動に関する情報提供は役に立っている)

学校の活動への参加等

(授業参観や運動会などの学校行事への参加、ボランティアでの学校の支援、「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供たちの教育に関わってくれる人が多い」と感じている)

<子供の教育に対する考え方>

高い学歴への期待

子供の教育について、「自立できるようにする」「人の気持ちが分かる」「自分の意見をはっきり言える」「将来の夢や目標に向かって努力する」ことの重視

[学力の成果が上がっているのはどこか(地域編)]

5. 以下のような地域で学力が高い

- 子どもの教育に関わる地域住民が多い地域

例えば、

- ・ 地域寺子屋
- ・ 登下校時の見守り活動
- ・ 読み聞かせ活動

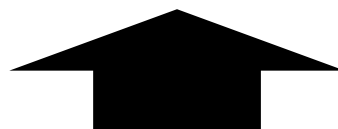
など

- 子ども達は、社会の宝、地域の宝。
- 学校・家庭・地域が、子ども達の成長のため、連携して、具体的に行動することが大事。

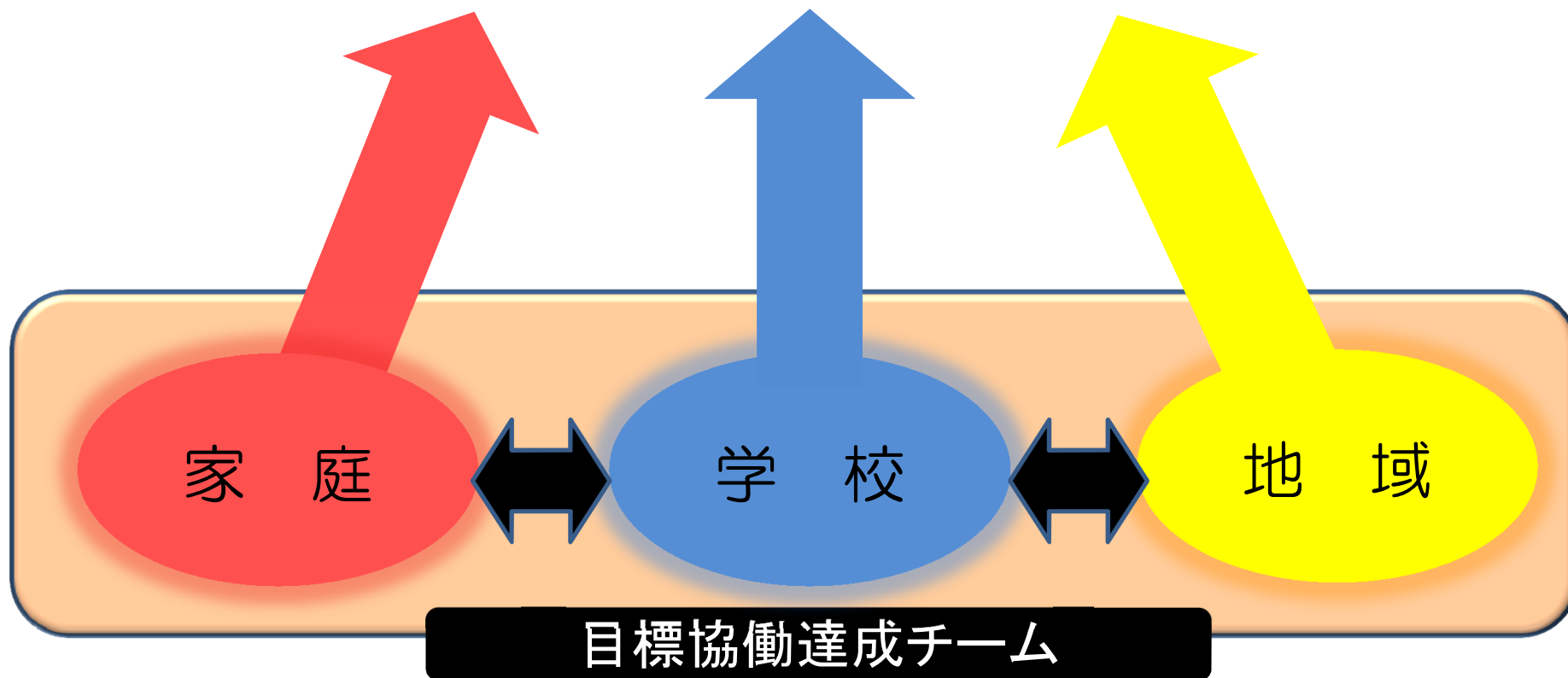
目標協働達成校



子どもたちの成長



学校の重点目標



ご静聴

ありがとうございました。